変貌する投資環境

第 408 回～タイ

コストや専門知識など課題山積

カーボンニュートラルで日系現地法人… 2

わが社のアジア戦略
「着物や帯を新たなモノづくりに」
日本リユースシステムがカンボジアで… 9

各国情勢
【タイ】台湾大手がＥＶ生産 15 万台目指す
【マレーシア】３月までに入国規制を撤廃
【インドネシア】高速鉄道の需要予測が半減 …11

ウィークリーレポート ミャンマー
「国軍が描く経済政策」 …19

ASEAN エネルギー事情
「ガス、原油市況が高騰」
地政学的リスク、脱炭素、市場化の不備も…20

弁護士がみるミャンマー
「輸入禁止の発表、納税方法の変更、
小切手決済システムの変更」 …21

「ＡＳＥＡＮ経済通信」購読料改定のお知らせ …22

アジア点描
上から
・スリガオ（フィリピン）
・チャンパサック県（ラオス）

週報 ASEAN 経済通信

２月７日～２月 10 日のニュースと最新コラム

第 645 号
（2022 年２月 14 日）

© 金融ファクシミリ新聞社

TEL：03-3639-8777
Email：news@asean-economy.com

無断コピーおよび転送は固くお断りします

日々のニュースはこちらからご覧ください
https://www.asean-economy.com/

わが社のアジア戦略

着物や帯を新たなモノづくりに

日本リユースシステムがカンボジアで

国内外でリユースビジネスを手がける日本リユースシステム（東京都港区）が、日本の廃棄着物や帯を利用したサステナブル素材の流通をカンボジアで開始した。日本の家庭には約８億点もの着物や帯が眠っているとされるが、これらを生地素材としてアップサイクルして、現地のハンドメイドユーザーやアパレルブランドのモノづくり用として利用してもらう。

プノンペンに生地素材のエキシビションコーナーを開設した。３月から本格稼働を予定しているが、すでに現地在住のフランス人デザイナーなどからの発注があり、アパレルの素材として活用され始めている。「カンボジアでは結婚式などで豪華な民族衣装を着用されるため、そうした用途でもぜひ使っていただきたい」（広報担当）。

同様の事業で実績のあるモンゴルでは、デールと呼ばれる民族衣装に日本の着物素材がさかんに活用されるようになった。オリンピックメダリストや女優といった著名人を中心に人気が広まり、高級ホテルや老舗デパートの仕立屋でも取り扱われる。同じくマレーシアでは、ムスリムのスカーフ「ヒジャブ」に、ドイツではインテリアやクッションの素材としてのニーズもある。「日本人には着物というイメージが強いが、国が変われば新しい使い方が生まれて、参考になることが多い。固定概念にとらわれず、さらに普及を図りたい」（同）。

平安時代からの技術をいかす

日本の家庭では、「着る機会がない」「手入れが大変」といった理由から、着用されなくなった着物や帯が右肩上がりで増加中だ。当初は、着物や帯そのものの用途で海外市場に

着物素材を活用したデール（左）とヒジャブ（右）

〈無断コピーおよび転送は固くお断りします〉

提案したが受け入れられず、社内でアイデアを絞って生地素材として活用することとした。そうして生まれたのが「お針子事業」。2017年1月から活用した着物・帯は42万点近くとなった。

「お針子事業」では、モノの再活用だけでなく、さまざまな「コトづくり」も行っていることが特徴だ。その1つが、シミや汚れを処理する日本の伝統技術「洗い張り」を応用していること。平安時代から続くという技術を現代風にアレンジして、昔の技術的なエッセンスを残しながら作業を簡素化するかたちで活用している。

また作業や流通の過程では、国内外の身体障害者やシングルマザー、貧困層などと連携。着物や帯をほどいて生地にする、「洗い張り」の処理を行う、あるいはエキシビションコーナーで商品を整理するといった業務で、多様な人びとが参加する。安定した収入を得たり、自立を目指すチャレンジの場を提供している。

2000年代から資源循環に取り組む

日本リユースシステムは約30カ国・地域と取引を行い、「捨てさせない屋」として、さまざまなモノやコトをいかすビジネスを展開。リユース品を流通するという考えが一般的でなかった2000年代から、日本国内や海外で資源循環社会への取り組みを行ってきた。お針子事業では、カンボジアでモノづくりの輪を広げるとともに、北欧への展開も準備しているところ。社会に貢献するサステナブルなビジネスを今後も広げていく考えだ。

(22/2/14)　(M)

カンボジアに開設したエキシビションコーナー

「着物deワクチン」事業（ミャンマー）

もう1つの主力事業「古着 de ワクチン」

家庭などで眠る「捨てるのには忍びない」衣料や服飾雑貨を、カンボジアを中心とした開発途上国でリユースするとともに、世界の子どもたちにポリオワクチンを贈る取り組み。子どものサイズアウトした衣類や、様々な節目で利用されたバッグ・靴などは、それぞれの思い入れがあり捨てたり譲ったりしにくいものだが、「古着 de ワクチン」を通じてエコな形で有効活用して、子どもたちの命を救うことができる。専用回収キット（税込み3300円）を利用して片付けをすれば、社会貢献につながるという商品だ。ワクチンの寄付は、これまでにラオスやバヌアツなどへ379万人分（2021年12月末時点）の実績がある。事業は、外務省主催の第3回「ジャパンSDGsアワード」で「SDGsパートナーシップ賞（特別賞）」を受賞した 。2021年には、カンボジアに衣類などを販売・選別・再輸出するための直営センターを開設。同国内や世界へ向けた流通拠点とするとともに、現地スタッフにはポリオによる障害者らを雇用している。

〈無断コピーおよび転送は固くお断りします〉